令和6年度　大田区立糀谷学校（夜間学級）　自己評価　報告書

令和7年3月4日

○　本校の概要

○学齢を超えた義務教育の未修了者等の10代から80代までの幅広い年齢の生徒が学習している。そのため、生徒一人一人の習熟度、学習ペースにあった教育活動を行う。
　また、近年、外国籍の生徒の入学が増加しており、すべての学習の基礎となる日本語や日本文化、日本の生活習慣を理解させるため、個々の生徒の実態に即した教育活動を行う。
○来日して間もない外国人生徒のために日本語を学習するコースを設定する。
○毎週金曜日の4校時は「糀谷タイム」として衛生教室／読み聞かせ教室／卒業生の話を聞く会／伝統音楽鑑賞教室などを実施している。
○犯罪に巻き込まれないように関係諸機関との連携をとりながらセーフティ教室や安全指導を推進し、非行・犯罪被害防止教育の充実を図る。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「行事に積極的に参加した」 ・「友達と仲良くできました」 ・「熟心に参加している」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・夜間学級では人権課題、特に高齢者や外国人に対して目を向け、差別や偏見をなくし、互いの人格を尊重する豊かな心の育成を全教育活動を通して行っているが、人権資料等を活用した授業も計画する。 ・荒川第九中学校で開催された連合体育大会は、都内夜間中学生同士の貴重な交流が図られた。また、12月に足立第四中学校で行われた生徒会交流会も参加した生徒にとって貴重なコミュニケーションの場となった。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						D	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標2 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「友達と仲良くできました」 ・「糀谷中の勉強は楽しい」 ・「熟心に参加している」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図った。 ・様々な生育歴による多様な生徒の学力に対応するために、基礎・基本を重視し、特に国語・数学・英語の指導に重点を置き、学習集団は日本語の習熟度によりコースを分けて指導にあたるが、英語、数学はそれぞれの習熟度別少人数指導を行った。 ・来日して間もない外国籍生徒に対しては、日本語を主に学習するコースを設置して指導にあたり、すべての学習の土台となる日本語力の育成を図った。 ・始業前に積極的に補習をする生徒が多く見られた。長期休業中の補習においても生徒個々の学力に対応して学習サポートを行った。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						D	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮する基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「あなたはどの授業も熱心に参加していますか」 ・「進んで体を動かした」 ・「給食をきちんと食べた」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進した。 ・始業前に昼間部の部活動に参加する生徒や、放課後のスポーツ活動、連合体育大会、交流会など運動習慣の確立を推進した。 今後の改善策: ・体力向上を目指した部活動や運動機会を増やす。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			1:					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						D	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「先生の教え方はわかりやすい」 ・「電子黒板やタブレットを使う授業はわかりやすい」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・ICT機器を活用する教員の数が増え、学ぶ意欲の伸長が見られた。学習課題や生徒作品、発表原稿などGoogleのclassroomを活用できた。 ・学校花壇の整備、図書コーナーの設置、生徒作品の壁面掲示などよりよい環境作りに力を入れた。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。			1:					
			2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。						D	0	
			1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「糀谷中学校での生活は楽しいですか」 ・「あなたは自分からあいさつをしていますか」 ・「相談に真剣に応じてもらえた」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・毎週金曜日の糀谷タイムの時間や学校公開、その他学校生活のあらゆる機会を通して、規範意識向上プログラム等を活用し、人の生き方、相手の気持ちについて考えさせる教育を推進した。 ・全校スピーチ大会を実施し、自分の考えを自分の言葉ではっきり伝えられるよう指導した。 ・学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等に取組んだ。 ・問題行動・不登校問題等にかかわる生徒に関しては、毎日の打合せで報告し、対応し必要に応じてケース会議等を実施した。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満の教員が回答した。								
			2:60%以上80%未満の教員が回答した。			2:			C	0	
			1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						D	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「あなたは学校生活の規則やルールを守っていますか」 ・「クリーンデーの時、そうじをきちんとしましたか」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応した。 ・各種研究発表会や授業改善セミナー等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かした。 ・各教科部会、教科班会等の研究・研修の成果を共有し、自身の指導力改善に生かした。 ・校内委員会等を着実に実施し、学校における特別支援教育を推進した。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						1:			D	0	
個別目標7 学校・家庭・地域コミュニティの核としての連携・協働による学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		生徒アンケート ・「薬物乱用防止教室は勉強になりましたか」 ・「救命講習は勉強になりましたか」 と回答した生徒の割合が 4．80%以上 3．70%以上 2．60%以上 1．60%未満	4:	4	生徒回答者数：17名 学校関係者回答者数：8人 ・教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信した。 ・地域教育連絡協議会において、生徒の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努めた。 ・糀谷小学校3年生の総合学習へのゲストティーチャー派遣や、警察、消防、図書館、卒業生との連携による特色ある教育活動を実施。 ・地域との連携をさらに強化し、地域資源を活用した活動を拡充することで、地域に根ざした教育を推進する。	A	7	評価は適切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:			B	2	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:			C	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						D	0	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す